

## 主の洗礼の祝日の説教

金 大烈 神父 2011年1月9日(日)

### 《主の洗礼・私たちすべては愛されるために生まれてきました》

おはようございます。

人々が自分の人生の中で自分をがっかりさせることを考えてみますと幾つかあります。その中で代表的なことは、「自分は価値がない、つまらない者だ、いつも負ける、何の役にも立たない」というような思いを持つことです。このような気持ちに陥ってしまうとその人は完璧に“うつ”になります。これは専門的にはいろいろな表現がありますが、結局私たちはしょうがなくてこういうことを感じながら生きています。

さあ、こういう気持ちに陥ったことがある方、手を挙げて下さい。私は365日のうちの1/3はそういう思いがあるんですけど・・・(笑い) 私たちはそういう精神的な病、弱さに置かれています。なぜならこの世の中のすべてのものは比較される世界だからです。ある時は、自分はこれは上手い、得意だと自信がある時もあります。でもその自信のあったものと比較されられる、もっと優れた者が必ず現れます。すると自分はつまらない者だと思い、それが段々深刻になると自分を責める、価値が無い、人生を楽しめないと落ち込んでしまいます。特にこの時代の若者たち“うつ”に落ち込んでいる子供たちや引きこもっている子供たちが多いです。そのような心の病にかかったとき一番代表的な反応は何だと思いませんか？ 憎むことです。自分はつまらない、価値が無いと思うのは謙遜と全然ちがいます。傲慢と同じくらい悪い影響があります。ということは自分以外の全てのもの、全てのことに敵意を感じ、自分の心を閉じて自分のことは絶対見せたくないという気持ちになってしまいます。

今日の福音(マタイ3・13-17)で、イエス様が洗礼を受けられました。皆様も洗礼を受けられましたね。イエス様が洗礼を受けたというのはどういうことでしょうか？ 洗礼はなぜ受けるのでしょうか？ 子供っぽい言い方をすれば「罪を洗うため」ですよね。イエス様は神様ではないですか。神であるイエス様に罪があったので洗礼を受けられたのでしょうか？ ここに鍵が隠れています。イエス様が洗礼を受けられたから私たちも洗礼を受けることになっているのです。ではなぜイエス様は洗礼を受けられたのでしょうか？ 洗礼者ヨハネもイエス様をおもいとどませようとして「私こそあなたから洗礼を受けるべきなのになぜ私から洗礼を受けられるのでしょうか。」と言っています。でもイエス様は「今は止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」と言われました。今日皆様に申し上げたいことはこのこと、「正しいこと。ふさわしいこと」です。

イエス様が水から上がったとき「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が聞こえました。この言葉は聖書の中で二回でてきます。聖変容(マタイ17・2-5)のときもこの声が聞こえました。イエス様がペトロとヤコブとヨハネを連れてタボル山に登られたとき、お顔や身体が光のように輝き、雲の中から声がしました。「これは私の愛する子、私の心に適う者」イエス様の生涯で

二回この声がします。洗礼を受けられてこの声を聞いてからイエス様は公生活に入られました。また、タボル山で変容され、この声を受けて十字架の道に入られました。イエス様はこの言葉に励まされて、いろいろな難しさを乗り越え使命を果たしたと神学者たちはみています。ということは、イエス様が洗礼を受けられ「わたしの愛する子」という言葉を聞いたことは私たちのためなのです。イエス様がこの世に来て洗礼を受けるのを模範として見せるということです。人間は罪の中に生きています。しかし、慈しみの御父である神様はイエス様を愛するようにあなた方も愛しているということを意味しているのです。

**洗礼の一番の意味は罪を洗うことではありません。神様が私たちが愛しているという強い確信を持つこと、これが洗礼の一番大きい意味です。**なぜなら洗礼を受けても私たちは毎日罪をおかしています。罪は私たちに付いてくる。自分つまらない者、価値の無い者と思うことは神様が私たちが愛していることを拒むことになる大きな罪です。私は愛される価値が無い等、いろいろな言い訳をする否定的な見方を直さなければなりません。**私たちすべては愛されるために生まれてきました。誰に？**まず神様に、そしてすべての関わりに。それを修復しなければ私たちは負け犬のように悲しい思いに囲まれてしまいます。**皆様、今日イエス様の耳に聞こえた声は、私たちに聞かせたい声です。「これは私の愛する子、私の心に適う者」**この言葉にふさわしい生き方をしなければなりません。皆様私たちは愛されています。絶対忘れないで下さい。

これから皆様に薦めたい話をします。年が明けたばかりですから、私が言うことはうるさく感じるかもしれませんが、ご家庭に聖書がある方、手を上げて下さい。全員持っていますよね。信者で家に聖書がない方は石を投げられるかもしれませんよ。(笑い) では自分の聖書を持っている方、手を上げて下さい。洗礼を受けて信者になって、神様に従いますという心で生きている私たちが自分専用の聖書を持っていなかったらおかしいです。聖書は値段が高いですけど、何日間か召し上がらなくてもいいですから聖書を求めてください。教会に来るとき聖書を持ってくることが一番ふさわしい。重いでしょうか？持ち上げられるでしょうか？教会専用のカバンを持って下さい。その中にロザリオ、祈りの本、聖書、女性はベールを入れてきて下さい。飾るためや見せるためではなく、聖書を読んで親しくなるために。カトリック信者は聖書をあまりにも読まないです。プロテスタントの信者に聖書に対する熱心さを教えてもらう必要があるほどです。彼らはいつも聖書を持っています。その位聖書に親しんでいます。しかし、カトリックでは家の祭壇や本棚に置いてあるだけ。それでは何の意味もありません。よく読んで下さい。きっと皆様を感じられなかったことが感じられると思います。

もうひとつ申し上げます。今平日のミサのことを考えてみますと、昼間のミサは結構多くの方が与っています。日本で一番平日のミサに出席する方が多い教会ではないと言われる司祭もいます。夕方のミサになるとこの頃は寒くて暗くてお年よりの方も多いため、夏場より減っています。私はもったいないなという気がします。毎日ミサに与りなさいとは言いません。ただ私が感じている喜びを分かち合いたいという気持ちがあります。ミサに預かってよかったと思われる方をお願いしたいで

す。ミサに預からなかったら不便になってしまうと思って、それだけで終わってはいけません。まず何人くらいの人に一緒に平日のミサに行ってみましょうと誘ったのか考えて見ましょう。

さあ二番目に、一ヶ月に一回くらいは平日のミサに与ろうという決心をして頂きたい。皆様に薬になります。ミサの味を味わうことができたなら日曜日のミサと全然違います。話す内容も違います。雰囲気も違います。ですから、一ヶ月に一回から二回平日のミサに与かって見るという気持ちになって頂きたい、というのが私の望みです。そういうことができれば皆様が今まで感じられなかったことが感じられると思います。

ありがとうございました。